

『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第31号(2009年5月21日)「中国市場動向2009年4月」



大人気「レッドクリフ」

世界に語り継がれてきた伝説の物語「三国志」を映画化した『レッドクリフ』が日本でも人気を博しています。秦の始皇帝以来約400年続いた中国統一の時代に終止符が打たれ、約300年の魏晉南北朝という分裂時代の始まりを告げる、“赤壁の戦い”は歴史的にも意義の大きな戦いです。

孔明が風を呼び、周瑜と知恵比べをしながら曹操を撃破する場面が臨場感あふれる映像で繰り返し広げられ、最大の見せ場となっています。圧倒的な勢力差をもろともせず、戦略を練り果敢に攻めたことでの見事な逆転劇は、まさに中国の歴史の転換点といえるでしょう。

歴史的な転換点

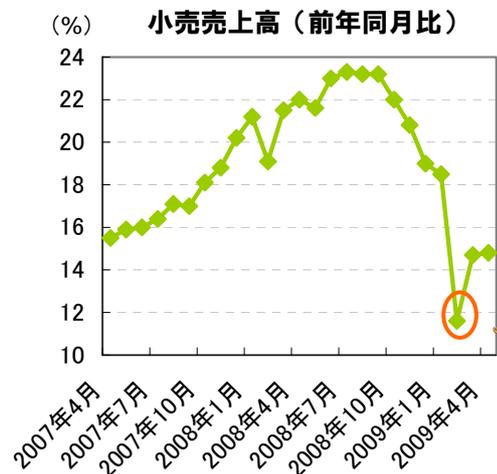
中国経済において2009年は、歴史的な転換点となる可能性があります。

急成長していた中国も、2008年からの世界的な景気減速の影響を受け、マクロ経済、企業業績ともに軟調に推移し、輸出入においても過去最低水準にまで低下しています。しかしながら、直近においては大型の景気対策などが功を奏しはじめ、中国経済に底入れの兆しが見え始めています。

2009年初から、香港や上海株式市場の力強い上昇ぶりは、海外投資家も強い関心を示しており、世界経済の中で最も早く回復に向かうのは中国との見方もあります。

中国政府は、2009年第1四半期(1-3月)の国内情勢と今後の対策を検討し、現状は、『内需拡大と経済発展の促進を目指す一連の景気対策の効果が見え始めており、予想より良好』とコメントしております。

また、個人消費の動きを示す4月の小売売上高が前年同月比で14.8%増となりました。伸び率はわずかではありますが、3月の14.7%より拡大しています。20%を超えていた2008年秋までの勢いには及ばないものの、明らかに回復の兆しが現れているのがわかります。



出所: Bloomberg、2009年5月現在



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



消費テコ入れで内需拡大

以前もご紹介いたしました、中国政府は、農村部で家電を購入する際に価格の13%を補助する「家電下郷」の制度を推進してきました。加えて現在では、都市部にもこのような支援制度を広げ、投資と並ぶ内需の柱である消費のテコ入れを急いでいます。この都市部での家電の買い替え促進策は、まず特定の地域で試験的に実施されるようです。家電の数品目が対象で古い製品を廃棄して新品に買い替える際、価格の10%を補助するとのこと。



強気相場は悲観の中に生まれ、懐疑の中で育ち・・・

相場格言として広く知られている言葉に、「強気相場は悲観の中に生まれ、懐疑の中で育ち、楽観の中で成熟し、幸福感の中で消えていく」というのがあります。この格言は、市場参加者のほとんどが株価の先行きに悲観的なとき、相場は底をつけ、一方で先行きに対して警戒感が強いときに株価は上昇し、大多数の人が強気になった時点で相場は天井をつける、そして、幸福感を味わっている間に、上昇相場が終わる、という意味です。

金融危機以降の中国は、経済環境や企業業績の先行き悪化懸念に加え、急激な外需の減速など、悲観的な見方が大勢であったと思われます。しかし、株価のバリュエーションを表す多くの指標には割安感が出て、売られ過ぎであることを示唆していることなどを考慮すると、中期的な視点に立てば、現在の株価水準は“底値圏”であるという見方もできるのではないのでしょうか。

2009年、強気相場が「懐疑の中で育つ」年になることを期待します。

《主要株価推移》 (各市場の直近1年間)



出所: Bloomberg

(編集後記) 子供の頃にマンガ三国志を読んで諸葛孔明は凄いと思っていましたが、「レッドクリフ」を観てさらに魅了されました。金城武扮する孔明は軍師として戦いを制し、政治家としても能力を発揮し劉備に遣える生き様が、人の心を熱くする要素だと感じました。とても魅力的な映画ですので、お勧めです。



中華街にて



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。